東京工芸大学同窓会　会報

ひろば

Vol.138
HIROBA

発行日：2019.6.1　発行人：田沼 武能

〒164-8678　東京都中野区本町2-9-5　TEL & FAX 03-5371-2732（事務局）
http://www.kougei-dousoukai.jp　dousoukai@kougei-dousoukai.jp（受信専用）

卒展×同窓のつどい
卒業制作展
卒業のことば
フォックス・タルボット賞
内藤明名誉教授の古希を祝う会
学位授与式・卒業祝賀会
ひろばのページ

東京工芸大学同窓会主催　卒展×同窓のつどい

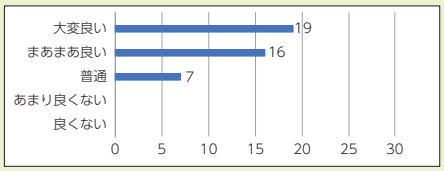
「卒展×同窓のつどい」とは、毎年２月に中野キャンパスで開催される大学の卒業制作展に合わせて、同窓会として後輩達への激励、旧交を温める空間の提供を目的に企画されたイベントです。軽食と飲み物を用意し同窓生と恩師、後輩達（現役の学生さん）が「おしゃべりの場」として気軽に参加できるシンプルな会で、毎年多くの方々にご参加、ご好評を頂き今回で３回目の開催となりました。

卒展×同窓のつどい アンケート調査

卒展 × 同窓のつどい満足度

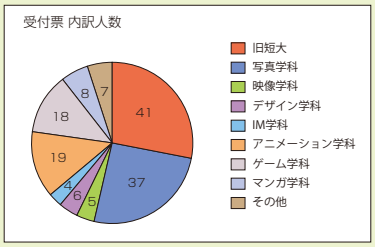
	人数
大変良い	19
まあまあ良い	16
普通	7
あまり良くない	0
良くない	0
合計	42

アンケート回収数43枚だが感想の未記載が多かった



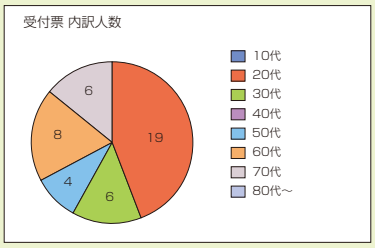
受付票内訳

	人数
旧短大	41
写真学科	37
映像学科	5
デザイン学科	6
IM学科	4
アニメーション学科	19
ゲーム学科	18
マンガ学科	8
その他	7
合計	145



アンケート年代別内訳

	人数
10代	0
20代	19
30代	6
40代	0
50代	4
60代	8
70代	6
80代～	0
合計	43



その他コメント欄

- お寿司が食べたかったです。（20代）
- お酒がたりない！？2018年より少ない。（20代）
- 新しい学食で来年開展してほしいです。（20代）
- せまい（20代）
- また来ます（30代）
- 学科別にブースを分けてもいいかも知れません。（30代）
- 毎年楽しみにしています。（30代）
- 写真の展示が年々減ってきているので寂しい思いです。（60代）
- 久々の来校、変わりすぎてビックリしています。楽しいひとときを過ごさしていただきました。（60代）
- 田村先生と卒業以来初めてお会い出来、酒をくみかわせて大変なつかしく、うれしく思います。初めて出席して最高でした。来年も都合がつけば是非出席したいと思います。ありがとうございました。（60代）
- もう少し年代を超えて席が同席できると良いと思います。（70代）

「卒展×同窓のつどい」に寄せて

2019年(平成31年)２月22日(金)～24日(日)の卒業制作展期間に、今年も「卒展×同窓のつどい」が開催されました。今年で３回目ということでイベントの認知度も少しずつ上がってきたように思われます。昨年までの会場であったプレイス(学食)が拡充工事のため、今年は１号館の教室での開催になりました。いつもより少し小さめのスペースの中で、たくさんの人たちにご来場頂きました。年代の壁を超えてたくさんの笑顔が溢れ、あっという間に時間が過ぎていきました。昨年卒業した若い卒業生、10年ぶりに子ども連れで来てくれた卒業生、短大時代の大先輩の卒業生の方々など、皆さんがひとつの教室に集まる光景は、不思議な気持ちにもなります。お互いの近況を報告しあったり、学生時代の話に花が咲いたり、当時の恩師と懐かしそうに歓談する様子は、実にほのぼのとしたものでした。同窓会では、幅広い世代の方々が集まるこのイベントには特に力を入れています。年に一回、卒展をきっかけに母校で合流し、夜は各世代で飲みに行って頂くのが理想です。また次回、是非お会いしましょう。

上田 耕一郎(75期)

「卒展×同窓のつどい」

盛大に、賑やかに開催

卒業制作展

義江学長

テープカット

吉野芸術学部長

オープニングセレモニーに集まった学生・教職員

卒展委員長のことば

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2019」は2019年２月22日から24日まで三日に渡り中野キャンパスの様々な施設で行われました。多くのご来場者が見守る中で無事に終えることができました。大学創立95年目の今年は７学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、マンガ、ゲーム)揃って、じっくりと準備することができ、中野一元化に伴い大変慌ただしい時期ではありましたが、落ち着いた雰囲気のなかで盛況に終えることができましたことをご報告するとともにご協力いただきました同窓会の皆様にはお礼申し上げます。

初日のオープニングセレモニーは義江龍一郎学長や吉野弘章芸術学部長のご挨拶から始まり、各学科の代表学生と共にテープカットを行い華やかに祝うことができました。三日間、落ち着いた雰囲気のなかで展覧会は進められました。来場者と卒業生との話し声は賑やかに各会場に響き渡りました。特別企画では本学の写真学科卒業生で、声優の仕事をされている三瓶由布子さんをお招きして「工芸大で学んだこと、クリエイターとして」という題材で写真学科の川島崇志先生と対談をしてもらいました。もう一つの企画としては中野区と強い関係をもつアーティストとして大槻ケンヂ氏をお招きして本学の強みであるメディア芸術についての講演会を設けました。会場は両日ともに大勢の来場者で賑わいました。来場者の皆様には喜んでいただけたようで大変嬉しく思いました。

今年度も引き続き、４年間の学生生活の集大成である卒業研究の結果が各会場で心地よく展示できること、そして来場された皆様にとっては感動や驚きをもって作品と出会えるための場所であることを意識しながら「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2020」をより良くするために精進して参ります。同窓会の皆様にはご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

卒業制作展委員会委員長
教授　李 容旭(映像学科)

今回の卒展では、作品展示・発表に併せて特別企画も実施されました。1日目は声優・ナレーターである三瓶由布子氏による特別講演「東京工芸大学で学んだこと。そしてクリエイターとして」。三瓶氏は本学写真学科の卒業生であり、人生のターニングポイントになった本学の「学び」について、同じく本学卒業生で三瓶氏と同期の川島崇志助教との対談形式で語って頂きました。

また、2日目には、ロックミュージシャン・作家・シンガーソングライターの大槻ケンヂ氏による特別講演が行われました。「サブカルからメディア芸術まで」という珍しい講演テーマで、アニメーション、ゲーム、マンガといった日本が世界に誇る「メディア芸術」について、独特の持論を語って頂きました。

三瓶由布子氏特別講演

三瓶由布子氏

川島崇志助教（右）

大槻ケンヂ氏特別講演

大槻ケンヂ氏

卒業制作展

写真学科

卒業のことば

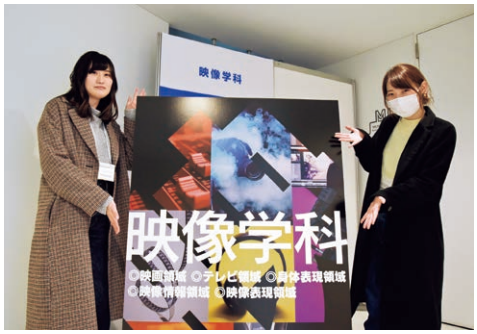
写真学科　細川大蔵

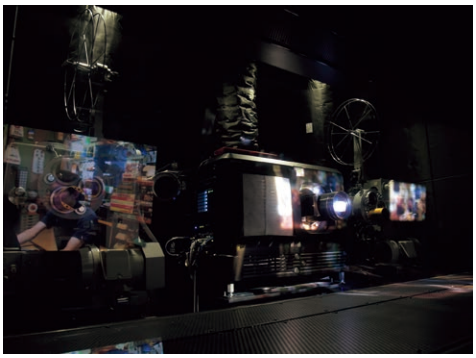
中学・高校では写真の活動は全くしておらず私は陸上部でした。しかし、大学進学を考えたときに小さな頃から得意だった絵を書いたりもの物を作ったりといった自分で何かを作り出すことが向いていると思い進学先を決めました。その中でも小学校高学年で少しだけ趣味の程度でしていた写真についてもっと学びたいと思い東京工芸大学に入学しました。私は関西出身で東京に上京するのは少し大変だったような記憶があります。しかし、入学して徐々に友だちも増えすぐに慣れることができました。１・２年生は厚木キャンパスで言わば田舎という感じ。ですが、友達と夜中に車で遠くに行って写真を撮ったりその中で他愛も無い会話をしたりと東京ではあまり出来ないような友達との思い出があります。しかし、作品はかなり瞑想していました。なかなか自分にしっくり来るようなテーマに辿り着けなかったりまだ知識と技術が追いついてきませんでした。今度は３・４年生で中野キャンパスに移動して更に沢山の人との繋がりができました。色々な人との意見の交換で自分の知識や技術が養われていったように感じます。そこで色々なものを吸収して今の作品へと繋がりました。授業も更に濃い内容が増えていったり、先生とも密に接した分中野キャンパスに来てからの思い出はかなり強いものです。

４年間振り返って厚木も中野も色々な思い出ばかりです。早かったようにも感じるし時相応の時間でもありました。この４年間で沢山の知人、友達、先生に影響を受け、自分の写真へと変わっていきました。卒業してからは今度は自分が沢山の人に影響を与えられるような人になりたいと思います。

卒業制作展

映像学科





卒業のことば

映像学科　石川 陸

僕は、高校生の時までずっとサッカーをやっていました。他にやりたい事等は無く、ただ漠然と受験に向けて勉強をしていました。ある時、僕たちの高校の文化祭で、映像分野の出し物として映画を制作する事になりました。初めて行う映画作りはとても楽しかった事を覚えています。将来は、映像の仕事に関わりたいと思い東京工芸大学芸術学部映像学科に進学しました。

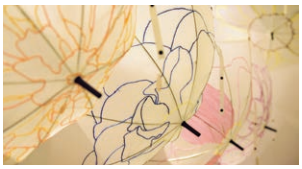
大学生になり、映像制作の右も左も分からなかった僕ですが授業で教わったり、先輩達の自主制作映画の現場に参加させて貰ったり等、大変さも含めて学ぶことが出来ました。自分の自主制作作品も長編を含めて計３作品作る事ができました。４年生になり、一番気合いの入る卒業制作では監督をすることが出来ました。

僕なんかが言うことではありませんが、映画作りは簡単な事ではありません。トラブルは多いですし、お金はかかりますし、人間関係もほぼほぼ悪くなります。卒業制作の時も台風の影響でキツキツのスケジュールの中で撮影しました。ですが、映画を作りたいという気持ちが強ければほぼほぼの事は大丈夫です。仲間も付いてくるはずです。映画に限らず、どの映像作品でも言える事ですが、自分の「作りたい」という気持ちだけが僕達を動かすエネルギーになります。こんな僕に関わってくれた先輩方や同級生。一緒に作品をよくしてくれた仲間に感謝しています。

卒業制作展

デザイン学科

グラフィックデザイン領域



卒業のことば

デザイン学科　グラフィックデザイン領域　森 愛美

デザイナーになるというのは幼稚園の頃からの夢でした。きっかけは祖母の「周りのものは全てデザイナーさんが作ってるんだよ。」という言葉に幼いながら衝撃を受けたことにあります。私は、この17年間の夢を今春に叶えます。

基礎のデッサンもまともにしたことなく、右も左も分からない私が夢を叶えられたのは、大学で出会った方々に支えられていたからです。優しく、時に厳しく教えてくださった先生方、困った時に共に頑張ってくれた友人達、またサークルで出会った先輩や後輩にも元気付けられ、４年間充実した大学生活を送ることができました。

学んでいく中で、表現することの難しさ、伝えることの難しさなど沢山の壁を感じましたが、それと同時に作ることが好きだと強く思えるようになりました。そう思えたのは、かけがえのない出会いと温かく見守ってくれた家族のおかげです。

これから新しい生活に変わり、辛いことや悩むことがたくさんあるかもしれませんが、大学で学んだことや思い出の全てを、一つ一つ糧にして、力に変えて行きたいと思います。

卒業制作展

デザイン学科

イラストレーション領域

卒業のことば

デザイン学科　イラストレーション領域　出川慶亮

小さなときから絵を描くこと、なにかを作ることにすごく楽しいと感じる子どもでしたが、高校1年生の辺りから極端に絵を描くことがなくなりました。熱い思いもなく、むしろ当時、美術の時間ですら苦に感じていた時期がある自分なのに、大学に進学することが前提だった家庭環境でしたが、それでも学費の高い美術系の学校に当たり前のように入れてくれた親がいたことはとてもありがたいことでした。

大学2年生の終わり頃から徐々に自分は結局何が好きで将来はどういう人間でいたいのかを真面目に考え出しました。それから本当に少しずつ、昔の大事な感覚を取り戻していくようになり、よりよい方向に考えられるようになっていきました。そしてその過程の中での4年生最後の1年間で取り組んだ卒業研究の作品は自分にとってよい成果となりました。

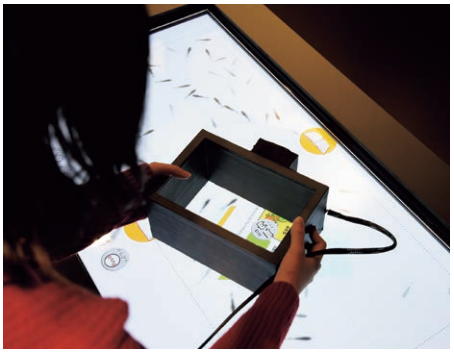
これからしばらくは、ちょっと不安、ちょっと怖い、そんな場所に身を置きながらも刺激をもらい、物事の考え方、感覚、感性を養っていければと思っています。今までやってきたこと、これからすること、しようとしていることがよかったのかそうじゃかったのか。これからもっと生きた後にどう思うのかはわかりませんが少なくとも今とてもよかったと思えています。

工芸大で出会えた友人や先生との関係はこれからも大切にしていきたいです。

卒業制作展

デザイン学科

映像情報デザイン領域



卒業のことば

デザイン学科　映像情報デザイン領域　岡村和衛

なにかを創造することが好きだ。はじめはそんな大雑把な気持ちで入学しました。デザイン学科ははじめ、幅広く４つの分野を学びます。ビジュアルだけにとらわれないデザインの世界はとても広く、驚くことばかりでした。

実習で先生に自分の作品を講評してもらうのはもちろんのことですが、他の学生の魅力的な作品や思考に多く触れることができたのは非常に刺激的でした。独学のみではなかなか巡り会えない貴重な経験となりました。

大学で学んでいくうち「映像を作るのは難しいこと」という先入観が拭われ、魅力に惹かれた私は映像情報デザインの道へ進みました。これは入学時の私には想像がつかなかったことだと思います。幅広く学べるデザイン学科だからこそ起きた体験だと感じました。

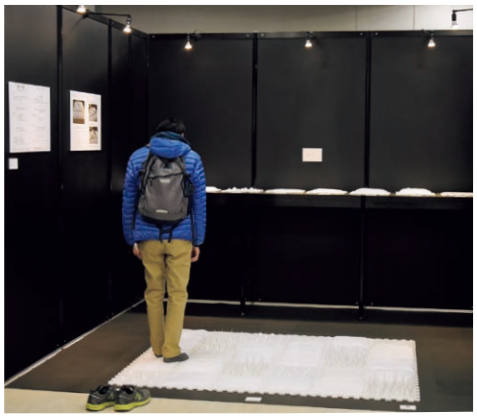
映像制作を続けていくと、身につけてきた一見映像と関係ない知識が作品制作に大きく響くことが多々ありました。今まで勉強したことは無駄ではなかったのだと実感できた瞬間となりました。

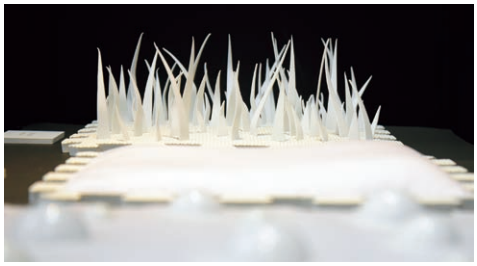
とても充実し、大きく成長することができた４年間でした。これからも映像に限らず視野を広げ、様々なデザインに目を向けて成長を続けていきたい。そして追い求めていきたいです。

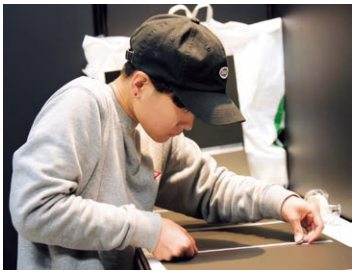
卒業制作展

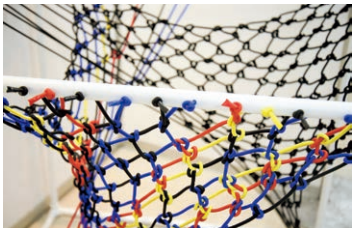
デザイン学科

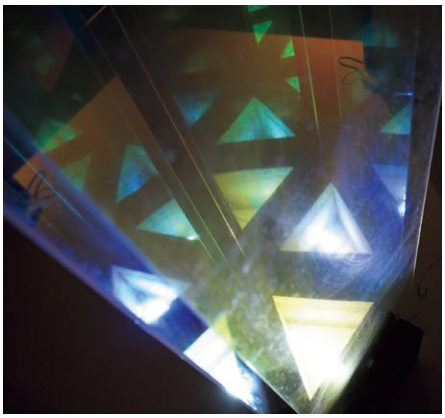
空間プロダクトデザイン領域











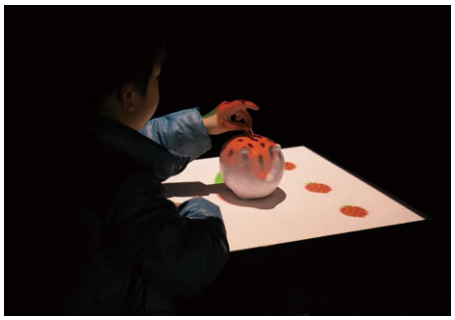
卒業のことば

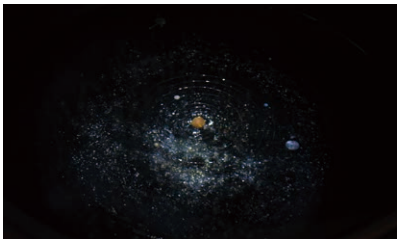
デザイン学科　空間プロダクトデザイン領域　葛西ひかり

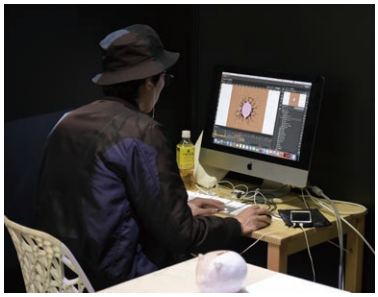
この４年間、東京工芸大学では本当にたくさんの人たちとの出会いと刺激に溢れていました。まず、出会った人のだいたいは個性が強く、何かしら得意なジャンルを持っているので、負けず嫌いな私にとって身の回りにそういった刺激のある環境は、劣等感を抱くこともありましたが、あの環境があったからこそ困難にも何とか乗り越えようと努力して来れたのだと思います。また、普通に過ごしているだけではおそらく出会わなかったであろう人々がたくさんいる環境は、良い意味で自分の中の常識を崩してくれました。構内を歩けば髪をビビットな色に染めた人と遭遇したり、まるで日常会話のように「そういえばブランド立ち上げたよ」なんて会話が聞こえたり。おかげで、先入観を持ちやすく、固定観念にとらわれやすかった私ですが、それらは崩れ去り、今では多様性を受け入れる考え方ができるような人間に成長することができたと思います。それからは自分の中の世界が広がり、さまざまなものに興味を持つようになりました。卒業制作で男性用コスメを制作したのもその影響かもしれません。工芸大に入学していなかったら、きっとここまでの変化はなく、今よりも狭い世界で満足していたかもしれません。それくらいこの４年間は貴重なものでした。

卒業制作展

インタラクティブメディア学科







卒業のことば

インタラクティブメディア学科　美田 翼

子供の頃からパソコンで何かを作ることが好きで、高校では情報技術科で電子工作やプログラミングを学んでいました。そのほかに趣味で音楽、動画の編集、web、CGなど楽しんでいました。大学を探していた時にプログラミング、電子工作、web、音楽、動画、CGなど今までやってきたことをもっと深く学べる東京工芸大学のインタラクティブメディア学科を知り、入学しました。

それまでは学んでいないところは独学だったのでところどころ知識に穴の開いている状態でしたが、入学後、専門知識のある先生方に教えて頂くことでその穴も埋まり深く学ぶことができました。

同じことに興味のある人が集まる大学では互いの作品を見たり、分野の違う人と話すことで刺激を受け新たな知識を得て、毎日が充実した４年間でした。

自分の得意としていることは学科で学んだことを総合的に活かす体験型アートです。今後は大学院に進学し、自分の作品で多くの人に新しい体験、楽しい体験を届けられるように研究や作品制作を続けます。

卒業制作展

アニメーション学科

卒業のことば

アニメーション学科　櫛本晃児

私の大学生活を表現するなら「後悔」だろう。

暗闇の中を手探りで歩くように、自分自身に導かれながらアウトプットを続けて4年ほど経つ。数え切れない程の人々と出会い、貴重な経験から多くのことを学んだ。本当に幸せで充実した学生生活だった。

しかし、その間多くの人を振り回し、数々の計画を白紙にしてしまった。

私は本当にわがままな性格で、やりたいという思いがあると勢いだけで突き進んでしまうクセがあるのだ。理想を叶える程の能力が無いとわかっていても。「時間無駄遣い選手権」があれば文句無しの一等賞を取る自信がある。懲りず、失敗をし続け、やる気は「後悔」になって私の心に残った。

大学という存在は学生に委ねている部分が多い。何を学んでもいい、どんなことを表現してもいい、全ては自分次第だと思う。私は大学生活で伸び伸びと「自由」に「後悔」をし続けた。後悔から自分を見直し続け、弱点を学び、対策措置を取ることで同じことを繰り返さない努力をしたのだ。暗闇を歩き続けるのは確かに怖い。だが自由に動き回ることが出来れば新たな発見もあるだろう。私はこれからもその光を探し続け、生きていこうと思う。

卒業制作展

マンガ学科

卒業のことば

マンガ学科　中村日了杏

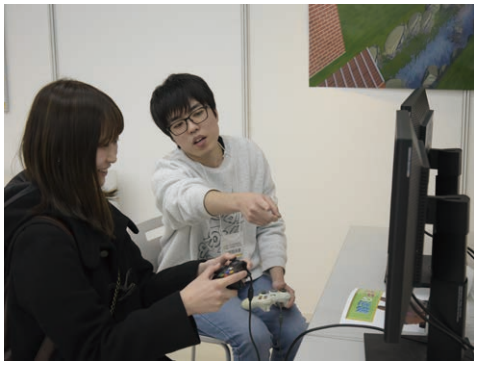
私らしいマンガってなんだろう。この４年間そのことを考え続けてきました。漫画家を志して大学に来たものの、技術のなさや課題に追い付くので精一杯な自分が恥ずかしく「ああ入らなければよかった」と後悔することが多かった大学生活。自信のなさから、就職先は漫画とは関係のない方向へ進みました。

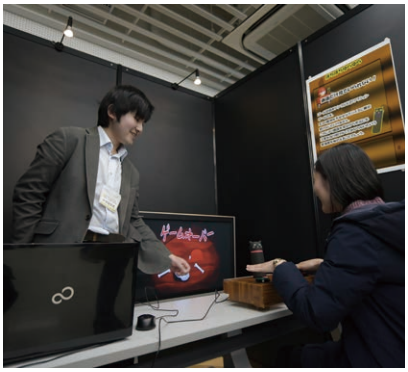
しかし、漫画はこれからも描いていくつもりです。私らしいマンガの形を少し掴んだのは２年生の時。授業の１つに、取材したことを元に漫画を描くというものがありました。調べたものを作品に落とす作業は簡単ではありません。ですが気づいたのは、自分がそうやって取材したり資料を通して感じたものを描くことは、今まで描こうとしてきたマンガよりもずっと描きやすいということでした。それを更に感じたのは卒業制作です。一番下の弟の闘病生活を描いた作品は、私自身の強い想いもこもっています。所謂エッセイ漫画が私に合ったマンガの形なのだと気づきました。

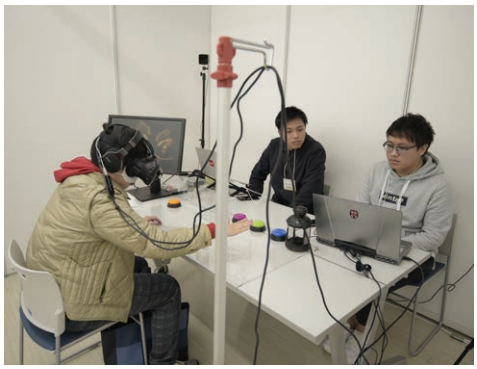
これから先、私は仕事場で見て聞いて感じたことを漫画にしていくつもりです。読んだ人がその業界を知るきっかけになれればと思います。

卒業制作展

ゲーム学科







卒業のことば

ゲーム学科　和田祐貴

おかげさまで大学生活の最終目標であったゲーム業界へ就職も決まり卒業することができました。充実した４年間でした。１年時には初めてプログラミングについて学びました。最初のうちは何をどう書いたらいいか分からないことだらけでしたが、先生やSAの先輩方のわかりやすい教えのおかげでプログラムの楽しさを知ることができました。また、２年次以降はチームでのゲーム制作を４回経験しました。意見の食い違いやプログラムの競合など毎回様々な問題に直面しました。時には自分の納得のいくものにできずに終わってしまうこともありました。しかし、大学生活最後の作品である卒業制作では、先生方やチームの仲間のおかげで無事完成させることができました。これらの経験は、これから社会に出ていくうえで私の大きな支えになってくれると信じています。最後になりましたが色々とお世話になりました先生方や先輩、互いに切磋琢磨してきた友達のみんな、４年間本当に楽しかったです。ありがとうございました。

2019フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割の他、国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第40回を迎えることになりました。

本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。本年度の応募者は56名、応募作品数は70点でした。

第一席には、写真学科3年生、ZHANG YU(チョウ ギョク)さんが選ばれました。大学構内、自宅、新宿、地下鉄構内、深夜の街などを舞台として、自身の内面性を表現したものです。1枚の写真で過去・現在・未来を表すために、デジタル合成した3人がドラマチックに配置された作品で、現代性に溢れながらも絵画主義的な雰囲気が漂う作品です。なお、第40回を記念して7月に「フォックス・タルボット賞40周年記念写真展」を写大ギャラリーで開催予定です。ぜひお越しください。

フォックス・タルボット賞運営委員長
教授　田中 仁

2019フォックス・タルボット賞は1月21日に審査が行なわれ、下記の方々が受賞しました。

2019フォックス・タルボット賞　入賞作品発表

第一席	ファントムペイン	チョウ ギョク	芸術学部写真学科３年
第二席	廃線跡	西 村 優 汰	芸術学部写真学科４年
第三席	新しく消える	阿 部 剛 士	芸術学部写真学科４年
佳　作	堰	五十子　基	大学院芸術学研究科2018年卒
佳　作	境	長 山　桜	芸術学部写真学科４年
佳　作	お一人様	ユウ スギョン	芸術学部写真学科１年
佳　作	Tibet Portrait	コウ ウホウ	芸術学部写真学科４年
佳　作	自然を覗く	黒 川 和 樹	芸術学部写真学科４年
モノクロ賞	隻手の声	斉 藤 桃 加	芸術学部写真学科４年

審査委員の先生方　田沼武能(委員長)　細江英公　中谷吉隆　立木義浩　小林紀晴　(敬称略)

「内藤 明先生の古希を祝う会」盛大に開催

本学名誉教授、同窓会副会長の内藤明先生は、2018年12月に70歳を迎えたことを祝い「内藤明先生の古希を祝う会」が2018年12月5日、東京・新宿のホテルセンチュリーサザンタワーで開催され、100名を超える方々がお祝いに駆け付けました。

内藤先生は1948年東京都生まれ、2005年東京工芸大学芸術学部教授、2008年東京工芸大学芸術学部芸術学部長、2010年日本写真学会功労賞、2014-17年日本写真芸術学会会長、2014年東京工芸大学名誉教授を歴任し「写真工業別冊 写真処方の特性と効果」「写真大辞典」「実務者のためのカラー写真」「デジタルスチルカメラの開発」他多数の著書があり、本学のみならず、写真業界に多大な貢献をされています。

これらの功績からその人脈も幅広く、祝う会には写真業界の著名人が数多く参集しました。内藤先生は冒頭の挨拶で、ご自身のこれまでの道のりを紹介するとともに、駆け付けてくれた方々に謝辞を述べ、とくに関係の深かった方は一人ひとりを来場者に紹介し、御礼を述べました。会場はお祝いムードで盛り上がるなか、20時過ぎにお開きとなりました。

平成30年度　学位授与式・卒業祝賀会

2019年3月20日、平成30年度学位授与式が執り行われ、式典の後には、後援会と同窓会共催の卒業祝賀会が開催されました。桜の開花が間近に迫ったこの日、天気は快晴、抜けるような青空という絶好の卒業式日和に恵まれました。会場の中野サンプラザでは４年間の思いを胸に、卒業生たちの笑顔が集まりました。

今年は、同窓会の田沼武能会長が所用のため式への出席が叶わなかったため、大澤登副会長が祝辞を述べられました。

卒業祝賀会では、おいしい料理と飲み物を手に、卒業生、先生たちが和気あいあいと談笑のひとときを楽しみました。

また、恒例の学科ごとの集合写真撮影も行われ、あっと言う間にお開きの時間がきてしまいました。この時撮影した写真は期間限定で同窓会ホームページよりダウンロードできますので、ぜひご覧ください。

卒業祝賀会

盛大に開催

ひろばのページ

34期写真工業科同期の集い

昭和55年(1980)年12月に発足以来、絶えることなく実施してきたこの忘年会も、平成最後の12月1日(土)に開催の結果、なんと38回目を数えるに至りました。今回も、相沢忠勝・末次祥宏の両氏が幹事を担当し、新宿のライオン会館「安具楽」での開催となりました。ただ、寄る年波には勝てずということでしょうか、参加者は少なめでしたが、楽しい時間を持つことができました。次回は、本年12月14日(土)に開催を予定しております。それでは、元気でお会いしましょう。

川名 晴美(34期)

写真技術科38期同期会

2018年12月10日、新宿駅西口の「日本海庄や」にて写真技術科38期同期会が開催されました。これまでも年2、3回集まっていると聞きびっくりしました。私は今回の出席は叶いませんでしたが、次回は是非出席したいと思っています。

山田 仁(38期)

2019年度入学式

2019年4月3日、神奈川県民ホールにて、2019年度の入学式が挙行されました。芸術学部に699名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。

35期写真工業科製版技術専攻同期会

【平成】最後の同期会を平成30年12月5日に定例会場の銀座8丁目「久保田」で開催しました。1年ぶりの再会、健康に感謝して<飲・食・話>在校時の校舎、親睦旅行会、富士フイルム工場見学など昔々の写真を懐かしく見ながら約2時間、学生時代に戻り楽しい時間を過ごしました。次回は令和元年12月4日(水)12時から開催予定です。

宮内 辰蔵(35期)

田沼武能同窓会会長が精力的に写真展を開催・メディアにも多数登場

2019年2月～4月にかけて世田谷美術館で開催された、田沼武能写真展「東京わが残像 1948-1964」をはじめ多くの写真展が開催されました。またテレビ出演や新聞記事など、メディアにも多数取り上げられました。

●今年前半開催の主な写真展

「明治・大正・昭和を生きる　笹本恒子・田沼武能写真展」ノエビア銀座ギャラリー

「東京 わが残像 1948～1964」世田谷美術館

「童心 ― 世界の子ども」写大ギャラリー

「昭和を見つめる目　田沼武能と土門拳」土門拳記念館

●メディア出演・新聞記事掲載等

「子どもを撮り 人間学ぶ」3月23日付け読売新聞夕刊

「生涯現役人」発見上手Vol.28 2019

「人生の詩Ⅱ 関口宏×田沼武能」2019年4月13日BS-TBS

展示会・出版の記録

※学年・職位等は開催当時のものです
展：展示会名　作：作者　所：場所　期：会期

展：Club銀燕チャリティ鉄道写真展2018
作：荒川好夫
（写真工業科42期）
所：セシオン杉並
期：2018.11.21-11.28

展：横谷民夫写真展　思い出の情景～誕生日記念～
作：横谷民夫
（写真工業科43期）
所：エキシビションサロン銀座
期：2019.1.9-1.15

展：松尾忠男写真展「N次元との対話　愛と生と死とPart Ⅲ」
作：松尾忠男
（写真技術科51期）
所：72ギャラリー
期：2019.1.9-1.20

展：写真集をつくる展
作：勝倉崚太(写真学科准教授)、坂恵治、佐藤海帆、庄司誠、菅原和紘、長島健人、長山桜、奈良美都、細川大蔵、松本侑子、WANGYILIN、石川雄大、鈴木一平、永田雅人(写真学科4年生)浦田愛美子(写真学科大学院生)菅泉亜沙子、影山あやの(写真学科助手)
所：napgallery
期：2019.1.12-1.20

展：平成展
作：小林紀晴(写真学科教授)、荒木田江凛、石井和優、石崎未祐、小田啓太、ZHUWEI、田近夏子、辻知里、登坂大一、中根裕、生原かれん、長谷川美紀、藤谷佳奈、百瀬恵、和田奈々穂
所：ギャラリー・ルデコ
期：2019.1.15-1.20

展：写真学科スペシャル2019 選抜作品展示
作：———
所：中野キャンパス
期：2019.2.4-2.9

展：田沼武能写真展 東京わが残像 1948-1964
作：田沼武能
（写真技術科24期）
所：世田谷美術館
期：2019.2.9-4.14

展：色の記憶
作：大津はつね(映像学科教授)、芳賀修平、吉川実文子、梅田侑紀、小出昂亮、伊藤静音、内田美麗(全員身体映像研究室)
所：中野キャンパス１号館地下2階デジタルスタジオ
期：2019.2.22-2.23

展：日本美酒大学「どーして日本酒のむの…？」
作：土田綾香
（デザイン学科３年）
所：原宿スペース
期：2019.2.24

展：肖像写真研究室作品展2019
作：上田耕一郎(写真学科准教授)岩城恵、金山新平、川﨑涼夏、熊谷優香、小林千織、清水拓海、杉山涼太、冨岡弘希、宮下達也、森下史織、柳瀬亜沙美、薮野彩乃、吉田圭吾(写真学科4年生)
所：ポートレートギャラリー
期：2019.3.7-3.13

展：My Prague
作：小島三幸
（写真学科78期）
所：結城蔵美館
期：2019.3.8-4.10

展：東京工芸大学芸術学部写真学科 Recommend展2019
作：片倉璃子、斉藤桃加、和田奈々穂、鬼頭佑輔、コウ ウホウ、前川竜太郎、森下史織、長島健人、田口瑞季(全員写真学科4年生)
所：ニコンプラザ新宿THE GALLERY1+2
期：2019.3.12-3.18

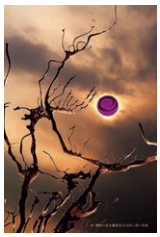
展：「VOCA展2019　現代美術の展望―新しい平面の作家たち」
作：喜多村みか
（写真学科80期）
所：上野の森美術館
期：2019.3.14-3.30

展：東京工芸大学“写真学科スペシャル”アワード2019作品展
作：細川大蔵、高橋実希、奈良美都、森田慶、生原かれん、松本侑子、長山桜(写真学科４年生)荻原諒子、伊藤颯、笠谷有香、原向日葵、(写真学科３年生)井上穂、富田遼(写真学科２年生)
所：ソニーイメージングギャラリー銀座
期：2019.3.15-3.21

展：Bighugs
作：駒本幾子(デザイン学科80期)、フジイサワコ、Asami Horie、羽明貞治
所：市兵衛町画廊／TAMANI
（東京都六本木）
期：2019.4.19-4.28

展：人間模様
作：梁丞佑
（大学院博士前期81期）
所：BOOK AND SONS
期：2019.4.27-5.12

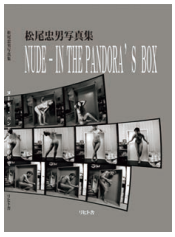
展：マンガ学科 カートゥーンゼミ作品展 -地球狂詩曲-
作：カートゥーンゼミ
（マンガ学科）
所：中野キャンパス
期：2019.5.9-5.21



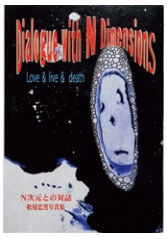
展：松尾忠男写真展「N次元との対話・他」
作：松尾忠男
（写真技術科51期）
所：numART
期：2019.5.12-5.26

展：日々
作：小島三幸
（写真学科78期）
所：RED Photo Gallery
期：2019.5.13-5.19

松尾忠男著
改訂版ぶらり写真術入門
松尾忠男
（写真技術科51期）
リヒト舎刊



松尾忠男写真集
NUDE IN THE PANDORA'S BOX
松尾忠男
（写真技術科51期）
リヒト舎刊



松尾忠男写真集
N次元との対話
松尾忠男
（写真技術科51期）
リヒト舎刊

訃　報

哀心よりお悔み申し上げます。

吉原　秀雄（19期・芸術科）
植木　譲二（27期・選科）
宮本　達司（31期・写真工業科）
佐治　武（32期・写真技術科）
志村多恵子（32期・写真技術科）
（旧姓 西川）
占野　靖典（36期・写真工業科）
熊谷　妙子（37期・写真技術科）
（旧姓 西川）
倉持　承功（38期・写真技術科）
荒川　みつ子（39期・写真技術科）
八十嶋まり子（42期・写真技術科）
（旧姓 渡辺）
綿貫　真人（42期・写真技術科）
後藤　哲久（44期・写真印刷科）
本郷　裕子（48期・写真印刷科）
（旧姓 鯨井）
間瀬　豊信（53期・写真技術科）
山本　理世（53期・写真技術科）

（敬称略）
訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会（規模の大小は問いません）など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

編集後記

先日、研究室の卒業生の結婚式に行って参りました。月日の流れを感じるとともに、社会の中で確実に成長し、活躍を続ける姿を見て、大変嬉しく感じました。ご家族や友人達との絆も共感することができました。時代は「平成」から「令和」へと変わりました。芸術学部では中野キャンパス一元化がスタートしました。同窓会の運営も、今の時代、今の大学、そして同窓生の皆様に寄り添っていくために、日々改革の議論を行っています。また皆様にお会いできる日を楽しみにしています。

広報委員長　上田 耕一郎（75期）

東京工芸大学同窓会　会報『ひろば』vol.138　発行人：田沼 武能　〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5　TEL & FAX 03-5371-2732（事務局）　http://www.kougei-dousoukai.jp